

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2日本ビル
 株式会社 ルネサス テクノロジ
 問合せ窓口 <http://japan.renesas.com/inquiry>
 E-mail: csc@renesas.com

製品分類	MPU&MCU	発行番号	TN-16C-A174A/J	Rev.	第1版
題名	R32C/111グループハードウェアマニュアルの誤記訂正		情報分類	技術情報	
適用製品	R32C/111グループ	対象ロット等	関連資料	R32C/111グループハードウェア マニュアル Rev.1.00 (RJJ09B0458-0100)	

R32C/111グループハードウェアマニュアル Rev.1.00 において誤記がありましたので、以下のとおり訂正いたします。

訂正内容

•Page 52 of 456

図6.3内下部のビットの説明部を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

LVDEN、LVEIEN、LVDF、VMF: **LVDCR** レジスタのビット

【正】

V DEN、LVDIEN、LVDF、VMF: **LVDC** レジスタのビット

•Page 62 of 456

図8.3のCM02ビットの内容を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

ビットシンボル	ビット名	機能	RW
CM02	ウェイトモード時周辺機能 クロック停止ビット	ウェイトモード時、 0: 周辺機能クロックを停止しない 1: 周辺機能クロックを停止する	RW

【正】

ビットシンボル	ビット名	機能	RW
CM02	ウェイトモード時周辺機能 クロック 源 停止ビット	ウェイトモード時、 0: 周辺機能クロック 源 を停止しない 1: 周辺機能クロック 源 を停止する	RW

•Page 62 of 456

図8.3の注4本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

fC32は停止しません。

【正】

fC32 **および、クロック源にメインクロックを選択した f2n**は停止しません。

•Page 70 of 456

「8.1.3 PLLクロック」最下行本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

メインクロックの発振が安定している状態で、PLC1~PLC0 レジスタの設定を変更してから PLL クロックが安定するまで、**t_{OSC(PLL)}**の待ち時間が必要です。

【正】

メインクロックの発振が安定している状態で、PLC1~PLC0 レジスタの設定を変更してから PLL クロックが安定するまで、**t_{LOCK(PLL)}**の待ち時間が必要です。

•Page 74 of 456

「8.5 周辺機能クロック」(1)本文2段落目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

CM02ビットを“1”(ウェイトモード時、周辺機能クロックを停止する)にしてウェイトモードに移行した場合、および低消費電力モード時、f1、f8、f32、**f2n**は停止します。

【正】

CM02ビットを“1”(ウェイトモード時、周辺機能クロック**源**を停止する)にしてウェイトモードに移行した場合、および低消費電力モード時、f1、f8、f32、**クロック源に周辺機能クロック源を選択した f2n**は停止します。

•Page 82 of 456

「8.7.2.4 ウェイトモードからの復帰」本文3段落目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

CM02ビットが“1”(ウェイトモード時、周辺機能クロックを停止する)の場合、**周辺機能クロック**を使用する周辺機能は停止し、ウェイトモードからの復帰に使用できません。

【正】

CM02ビットが“1”(ウェイトモード時、周辺機能クロック**源**を停止する)の場合、**f1、f8、f32、クロック源に周辺機能クロック源を選択した f2n、fAD**を使用する周辺機能は停止し、ウェイトモードからの復帰に使用できません。

•Page 86 of 456

「8.9.2.1 ウェイトモード」を削除いたします。

【誤】

8.9.2.1 ウェイトモード

- ウェイトモードに移行する場合、 $\overline{\text{NMI}}$ 端子が“H”の状態 WAIT命令を実行してください。

【正】

—削除—

•Page 86 of 456

「8.9.2.2 ストップモード」の1項目目を削除いたします。

【誤】

- $\overline{\text{NMI}}$ 端子に“L”が入力されている場合、ストップモードへ移行しません。ストップモードに移行する場合、 $\overline{\text{NMI}}$ 端子に“H”を入力してください。

【正】

—削除—

•Page 129 of 456

表11.7の割り込みシーケンス実行時間を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

割り込み	実行時間(CPUクロック換算)
周辺機能	14 + α サイクル(注2)
INT命令	12サイクル
NMI	10サイクル
ウォッチドッグタイマ、発振停止検出、電圧低下検出	11サイクル
未定義命令	13サイクル
オーバフロー	12サイクル
BRK命令(可変ベクタテーブル)	15サイクル
BRK命令(固定ベクタテーブル)	18サイクル
BRK2命令	19サイクル
高速割り込み	9サイクル

【正】

割り込み	実行時間(CPUクロック換算)
周辺機能	13 + α サイクル(注2)
INT命令	11サイクル
NMI	10サイクル
ウォッチドッグタイマ、発振停止検出、電圧低下検出	11サイクル
未定義命令	12サイクル
オーバフロー	12サイクル
BRK命令(可変ベクタテーブル)	16サイクル
BRK命令(固定ベクタテーブル)	19サイクル
BRK2命令	19サイクル
高速割り込み	11サイクル

•Page 131 of 456

「11.8 割り込み優先順位」の割り込み優先順位の式を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

ウォッチドッグタイマ

リセット > NMI > 発振停止検出 > 周辺機能
電圧低下検出

【正】

ウォッチドッグタイマ

リセット > 発振停止検出 > NMI > 周辺機能
電圧低下検出

•Page 145 of 456

図13.3の注1本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

対応するチャンネルのDMDiレジスタのMDi1~MDi0ビットが“00b”(DMA転送禁止)の状態ではDSEL4~DSEL0ビットを変更してください。

【正】

対応するチャンネルのDMDiレジスタのMDi1~MDi0ビットが“00b”(DMA転送禁止)の状態ではDSEL24~DSEL20ビットを変更してください。

•Page 159 of 456

図14.2の図中下本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

演算転送機能を使用しない場合、転送先番地をBASE+6番地に設定してください

【正】

演算転送機能を使用しない場合、転送先番地をBASE+8番地に設定してください

•Page 252 of 456

表18.10のUiC1レジスタの欄、1行目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

UiC1	7~4	“0000b” にしてください
------	-----	-----------------

【正】

UiC1	7~5	“000b” にしてください
	UiIRS	“1” にしてください

•Page 360 of 456

図24.18の注1本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

ただし、8ビットバスやマルチプレクスバスを選択し、P4_4~P4_7を入出力ポートとして使用する場合は、対応するポートをプルアップすることができます。

【正】

ただし、8ビットバスやマルチプレクスバスを選択し、P4_0~P4_3を入出力ポートとして使用する場合は、対応するポートをプルアップすることができます。

•Page 374 of 456

図25.7のFCAビットの内容を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

ビットシンボル	ビット名	機能	RW
FCA	第一コマンド受付完了フラグ	0: 第一コマンド処理中 1: 第一コマンド処理完了	RO

【正】

ビットシンボル	ビット名	機能	RW
FCA	最終コマンド受け付けビジーフラグ	0: 最終コマンド受け付け可 1: 最終コマンド受け付けビジー	RO

•Page 385 of 456 ~ Page 389 of 456

図25.14 ~ 図25.18のフローチャートを以下のとおり訂正いたします。

【誤】

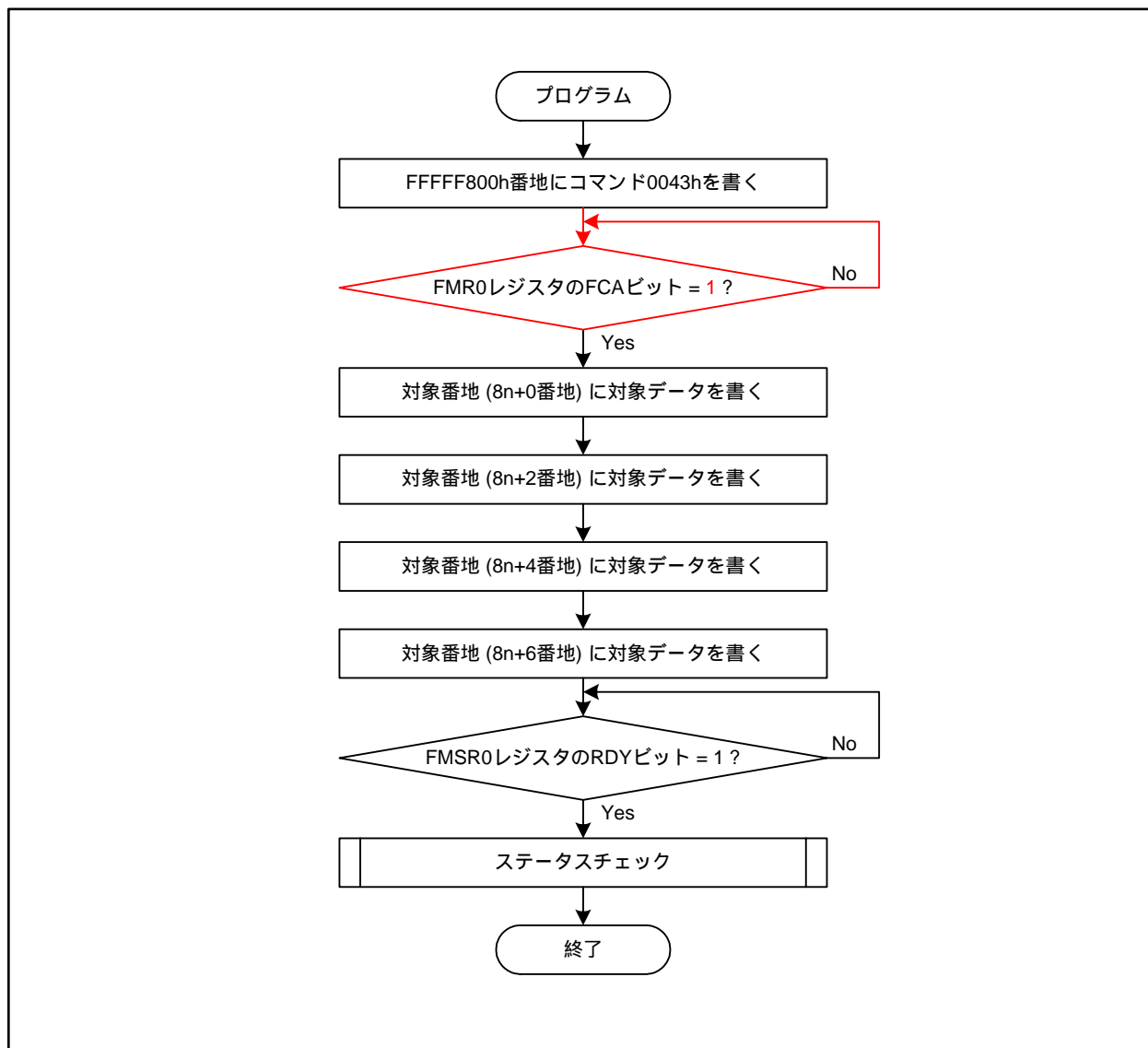


図25.14 プログラムコマンド発行のフローチャート

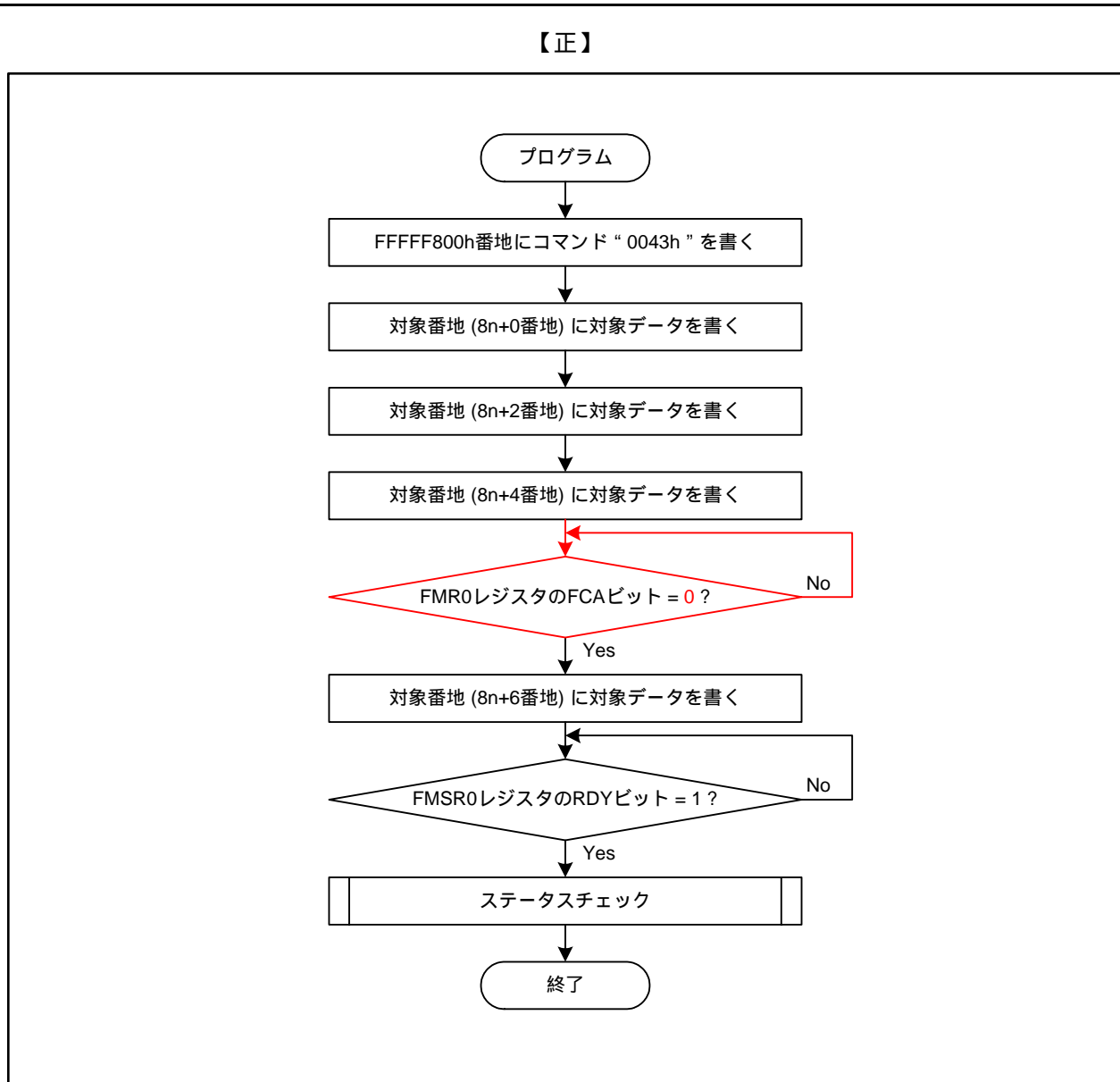


図25.14 プログラムコマンド発行のフローチャート

【誤】

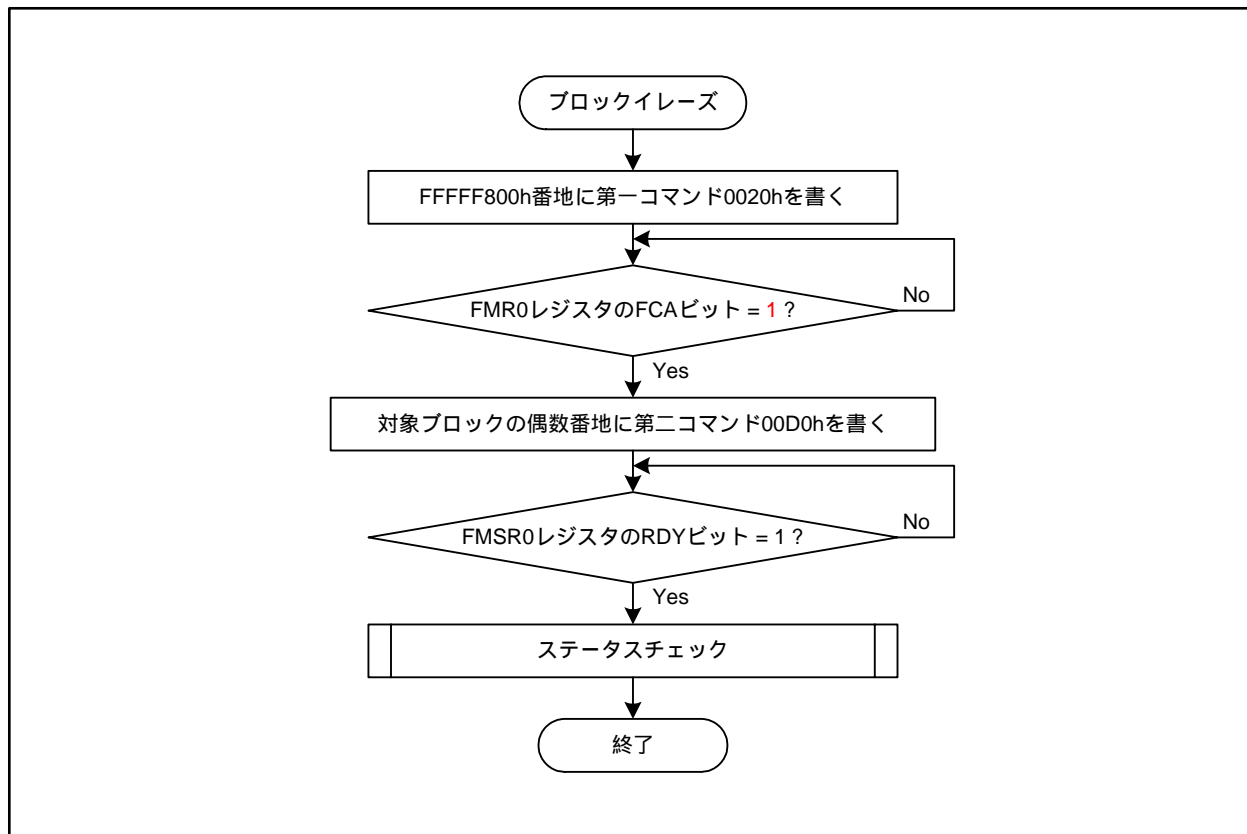


図25.15 ブロックイレーズコマンド発行のフローチャート

【正】

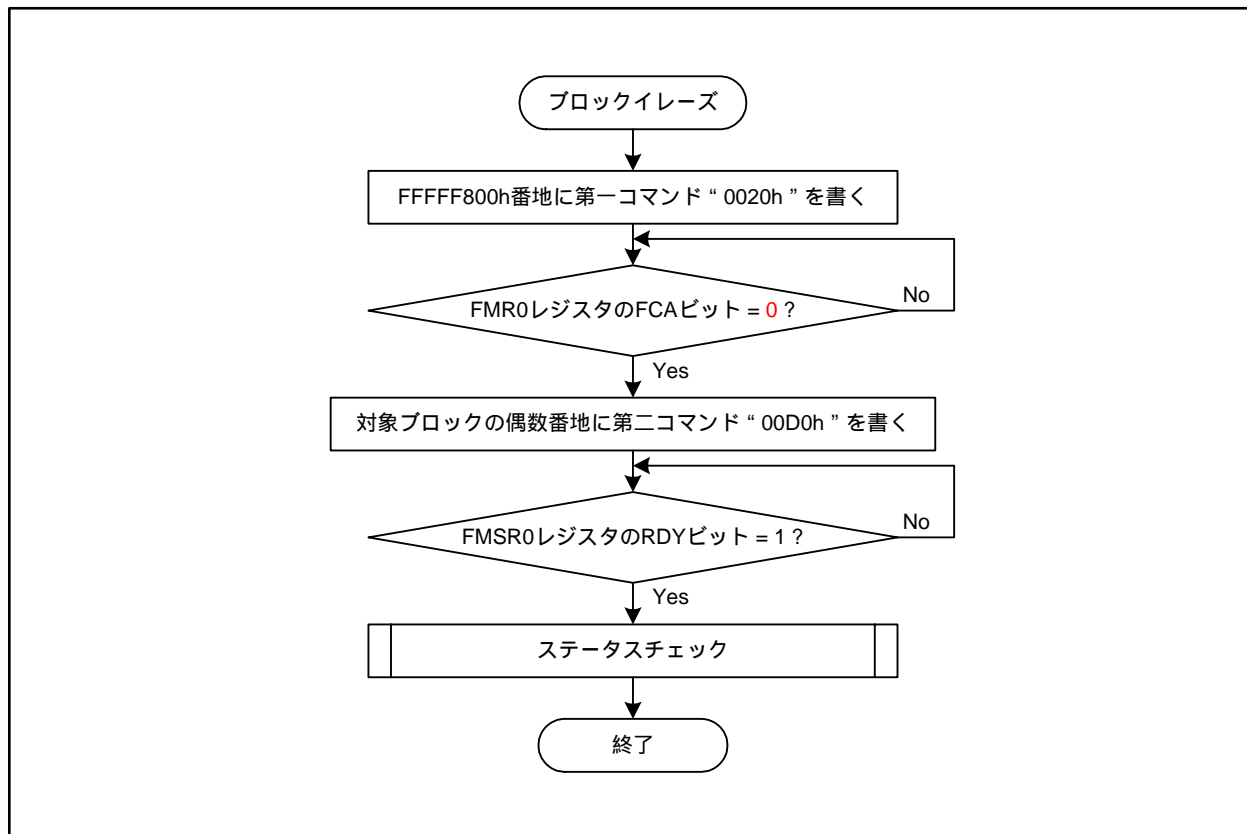


図25.15 ブロックイレーズコマンド発行のフローチャート

【誤】

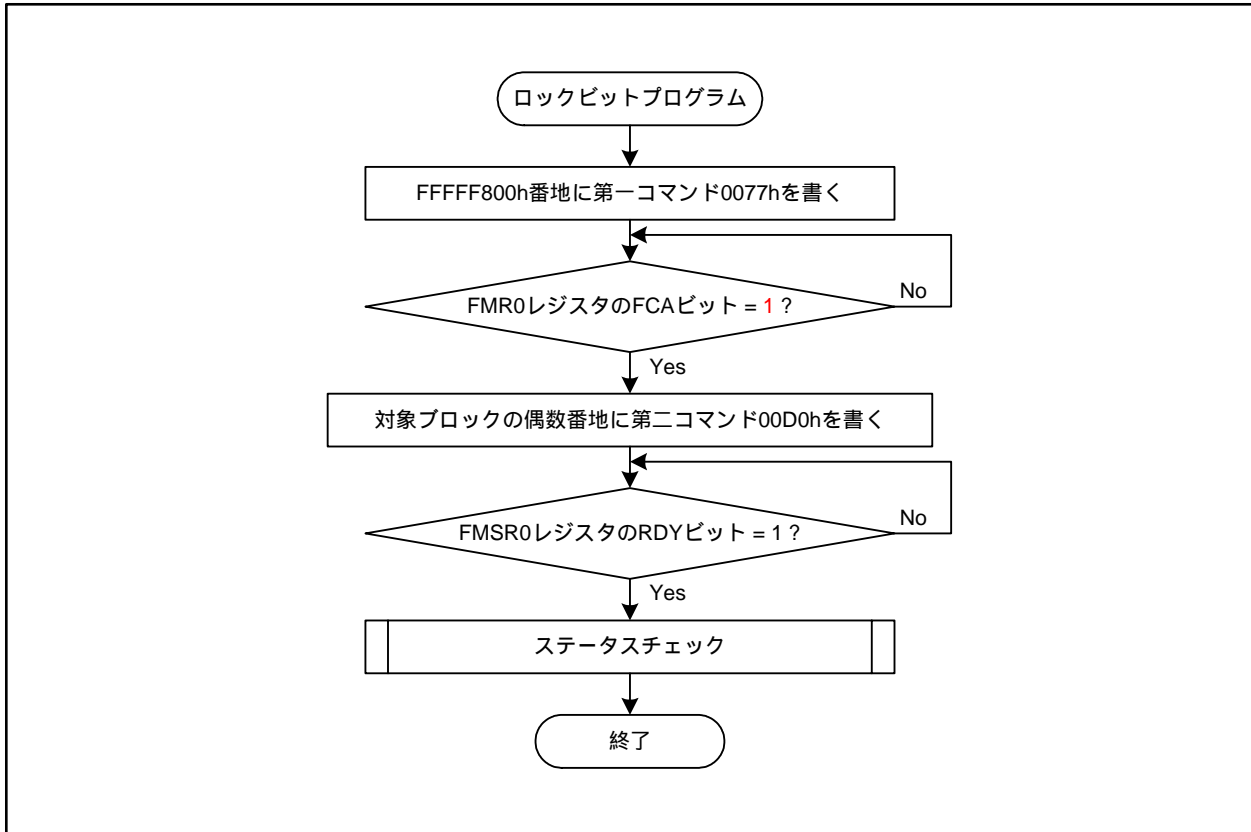


図25.16 ロックビットプログラムコマンド発行のフローチャート

【正】

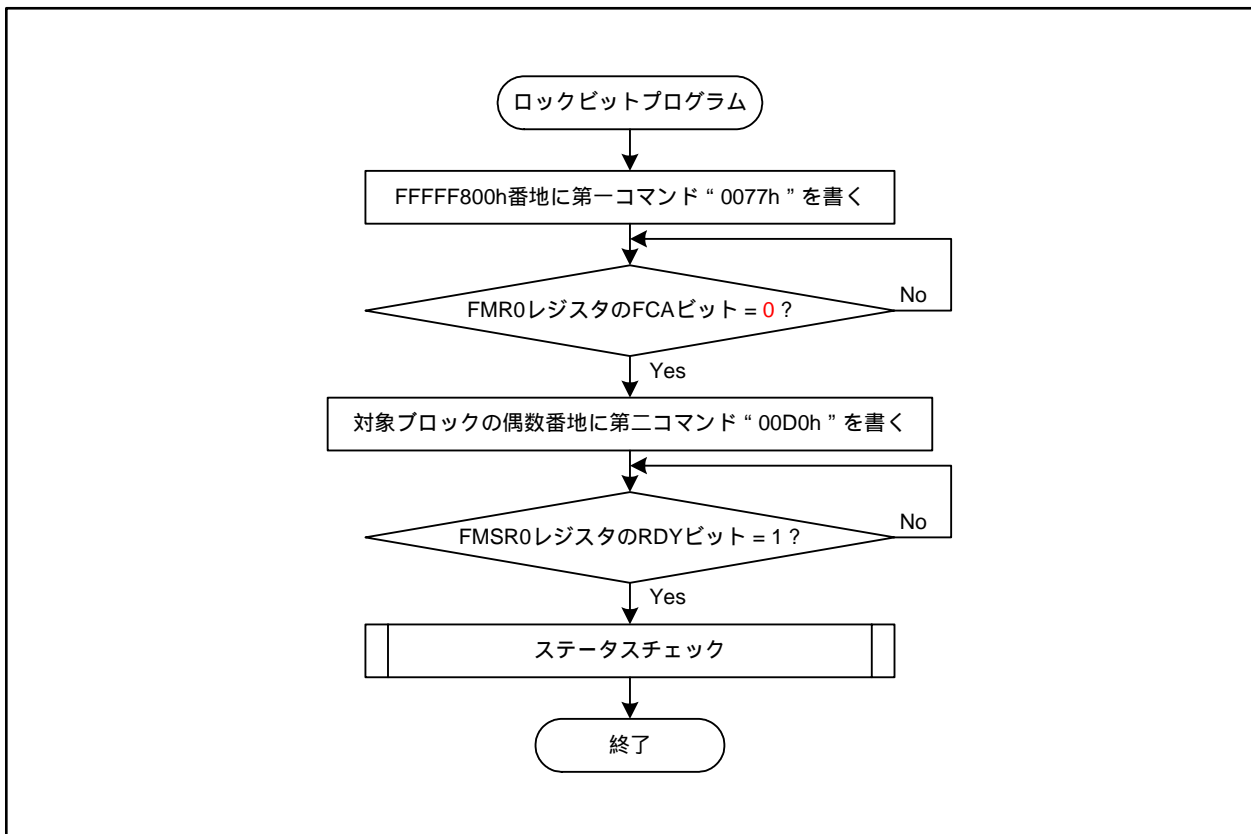


図25.16 ロックビットプログラムコマンド発行のフローチャート

【誤】

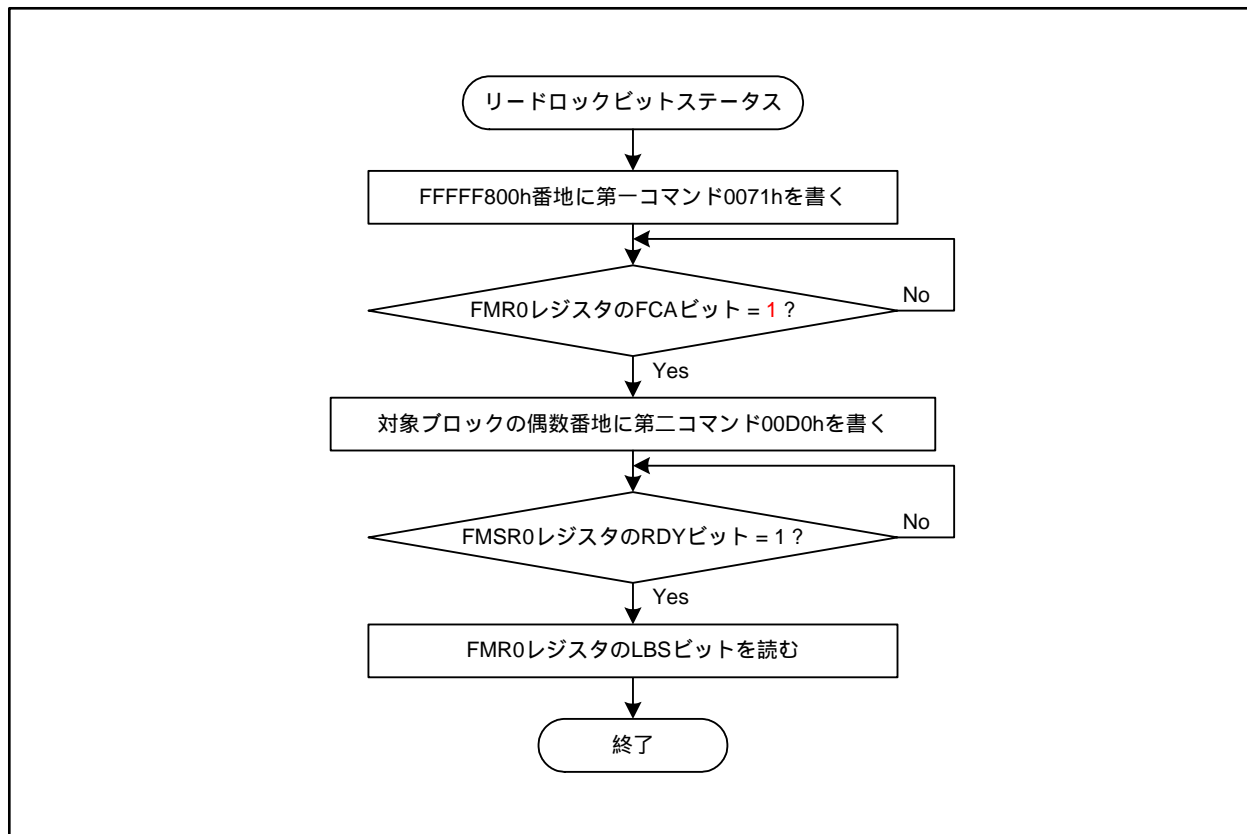


図25.17 リードロックビットステータスコマンド発行のフローチャート

【正】

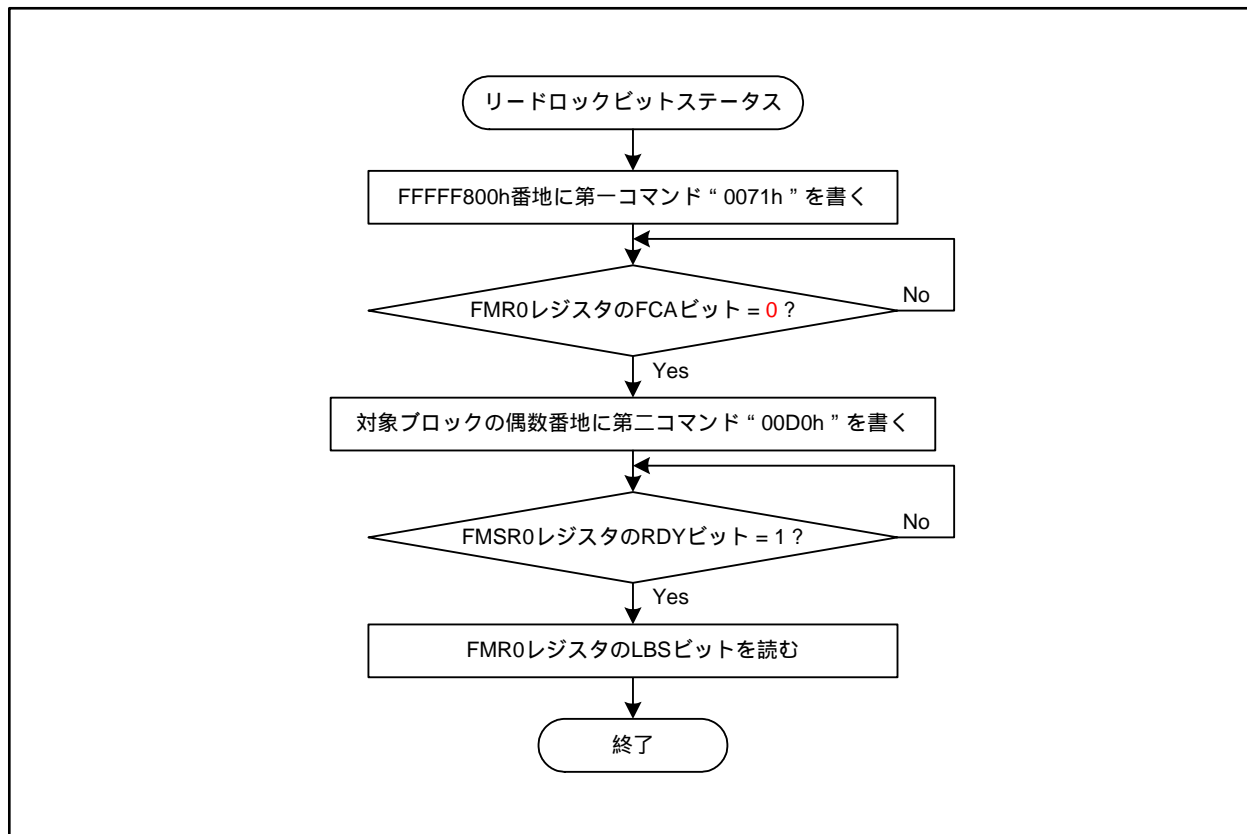


図25.17 リードロックビットステータスコマンド発行のフローチャート

【誤】

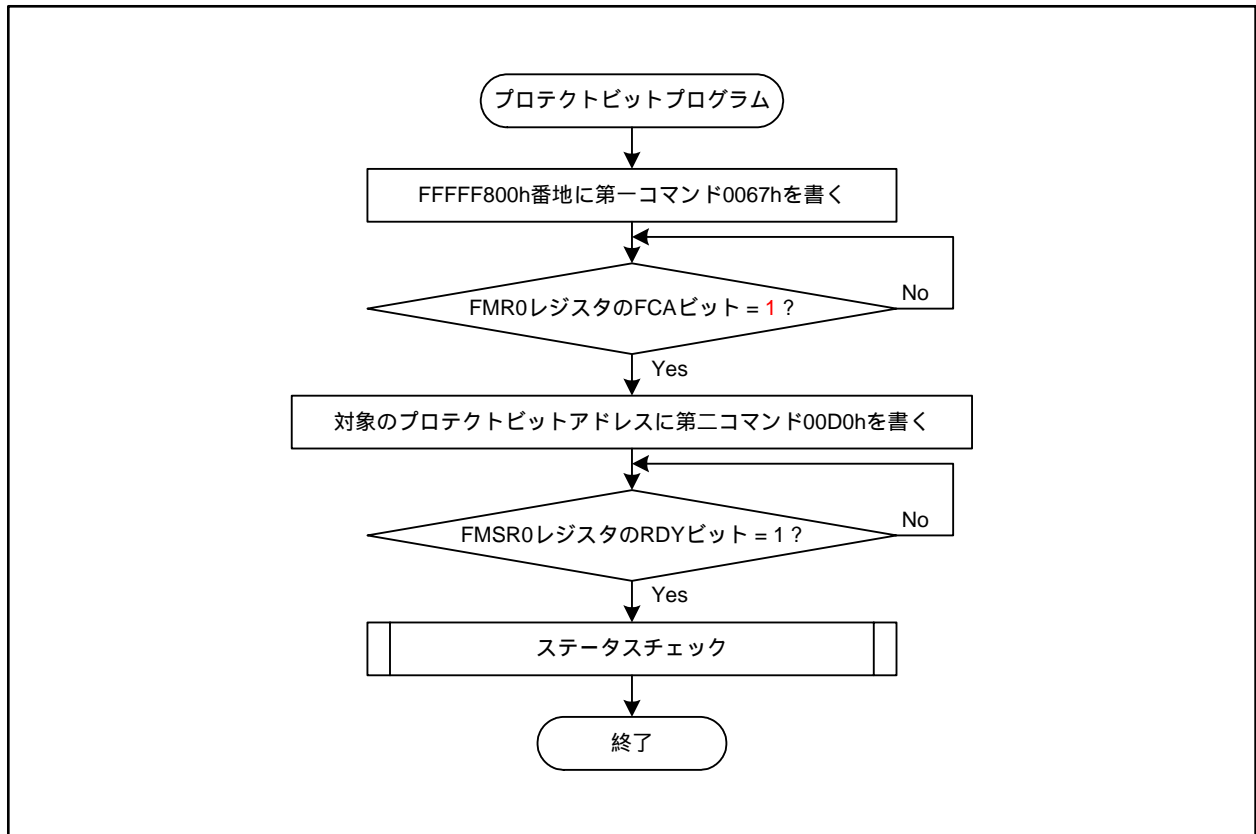


図25.18 プロテクトビットプログラムコマンド発行のフローチャート

【正】

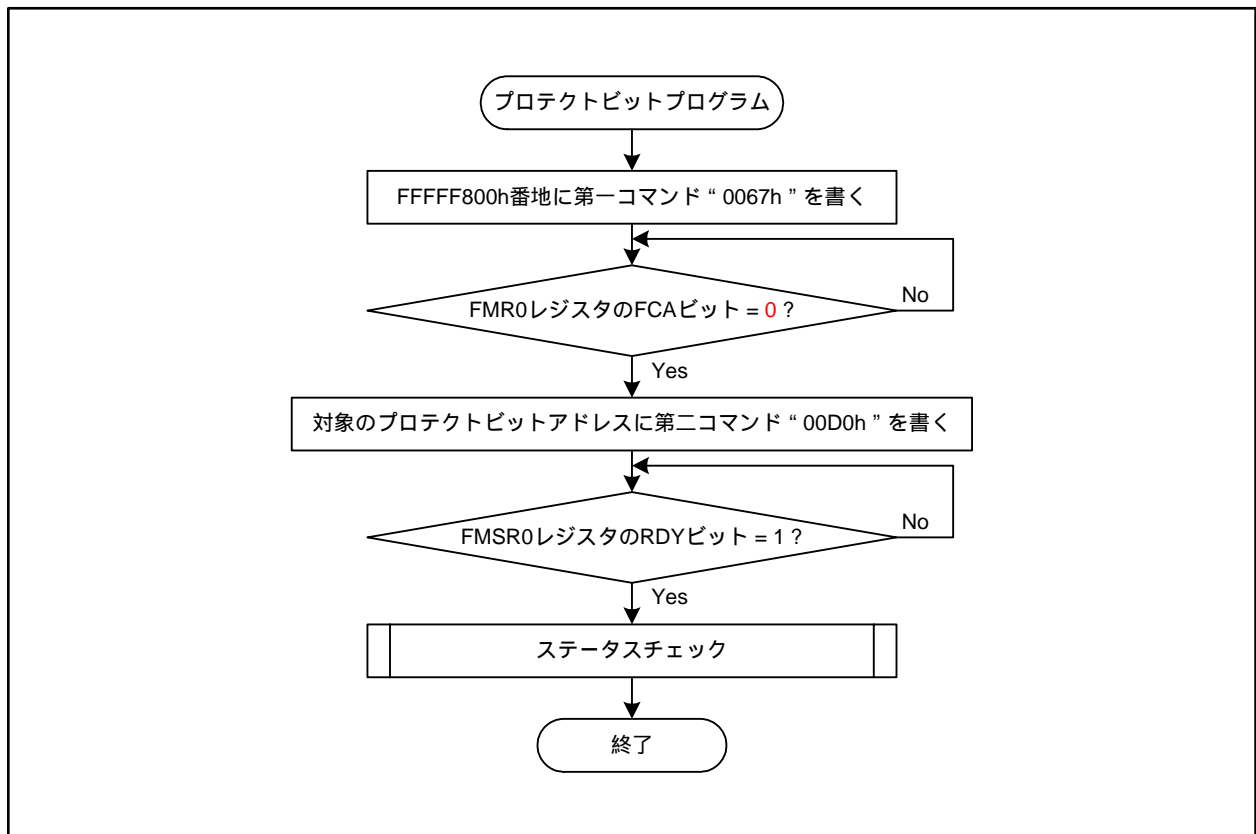


図25.18 プロテクトビットプログラムコマンド発行のフローチャート

- Page 415 of 456、 Page 427 of 456
表26.30、表26.53のtsu(D-C)の規格を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _{su(D-C)}	RXDi入力セットアップ時間	30		ns

【正】

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _{su(D-C)}	RXDi入力セットアップ時間	80		ns

- Page 417 of 456、 Page 429 of 456
表26.35、表26.58のth(W-D)の規格を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	最大	
t _{h(W-D)}	ライト後データホールド時間	図26.6参照	0		ns

【正】

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	最大	
t _{h(W-D)}	ライト後データホールド時間	図26.6参照	0.5×t _{c(Base)}		ns

- Page 438 of 456
「27.3.2.1 ウェイトモード」を削除いたします。

【誤】

27.3.2.1 ウェイトモード

- ウェイトモードに移行する場合、 $\overline{\text{NMI}}$ 端子が“H”の状態 WAIT命令を実行してください。

【正】

— 削除 —

- Page 438 of 456
「27.3.2.2 ストップモード」の1項目目を削除いたします。

【誤】

- $\overline{\text{NMI}}$ 端子に“L”が入力されている場合、ストップモードへ移行しません。ストップモードに移行する場合、 $\overline{\text{NMI}}$ 端子に“H”を入力してください。

【正】

— 削除 —

以上